

大分大学大学院教育学研究科教職開発専攻

認証評価結果

大分大学教職大学院の評価ポイント

- ・ ニーズへの対応：学生の多様なニーズやキャリアプランに対応して柔軟な学修ができるように3つの履修プログラムと9つの履修モデル（型）を設定する工夫をしながら学生を受け入れている。2年間で体系的に学ぶことができるよう配慮した教育課程が編成されている。
- ・ 定員充足のための取り組み：他大学を訪問しての進学説明会をはじめとして熱心な広報活動を実施している。
- ・ 授業の内容・方法：教職大学院の目的にそって学校現場における現代的課題に対応した適切な授業内容・方法となっている。現職教員学生がメンター、学部卒学生がメンティとなり、共修を進めている授業がある。共同開講スタイルでチームティーチングを進めており、実践演習科目「学校実践総合演習」により未来の学校を構想している。
- ・ 学習成果の検討と把握：A以上の学生割合が多い科目など、いくつかの基準を設けて該当する科目担当者にヒアリングを実施しており、成績を検討する場が設けられている。各DPに即した力が身に付いたかどうかについて入学時と修了時で比較することで検討している。教職大学院の学びの学校現場等への影響について、中長期的に追跡調査を検討している。修了生への追跡調査データ収集・修了生の勤務校調査（勤務校訪問）を行い、ホームカミングデイで修了生との交流を図りながら定期的・計画的に追跡調査をしている。
- ・ 教員の指導体制：履修指導にあたって「履修点検シート」を作成していたり、研究科ウェブページに、修了生からの個別相談を受け付けるページを用意し、いつでも相談できるように工夫している。学生指導部会で相談体制をとっている。
- ・ 学習環境・支援体制：小中学校のすべての教科書が保管され活用されている。院生室における現職教員との交流も可能である。適切な生活支援、キャリア支援、経済支援のしくみを構築している。様々な奨学金制度・基金・大分県教育委員会の補助が設けられている。
- ・ 組織的な研究環境：すべての新任教員が着任年度に研究内容や教育実践について発表して質疑応答を行っている。「短期プロジェクト」「研究交流会」の実施やNITSとのコラボ研修、「授業振り返り会」を実施し、「互見授業期間」も設けて事務職員も参加するなど協働で学び合っている。

令和7年3月

一般財団法人教員養成評価機構

I 認証評価結果

大分大学教職大学院（教育学研究科教職開発専攻）は、教員養成評価機構の教職大学院評価基準に適合していると認定する。

認定の期間は、令和12年3月31日までとする。

II 基準ごとの概評

基準領域1 学生の受入れ

基準1-1

○ アドミッション・ポリシーに沿い、入学者数の確保に努めるとともに、公平性、平等性、開放性を確保した学生の受入れを行っていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

学生のニーズやキャリアプランによって柔軟な学修ができるよう3つの履修プログラムと9つの履修モデルを設定する工夫をしながら学生を受け入れている。この5年間では、令和4年度以外は定員を充足していないが、充足率の平均は85%となっている。「履修プログラム制」を採用して学生のニーズやキャリアプランに即して計画を立て柔軟な学修ができるようにしている。「履修点検シート」を作成し、各モデルにおいて履修を奨励する科目を明確に示している。福岡教育大学を訪問して進学説明会を開催している。隣接県であるが、地元で教員になることを希望する学生たちを取り残さないようにしたいという考えは一致していることから、相互に説明会を開催することで合意を得て実施していることを確認した。教職大学院修了（予定）者の全校種における教員採用試験第一次試験免除を実現している。大分県教育委員会との連携によって入学者を確保している。

定員充足率が過去5年間の平均で8割を超えているとはいえ、定員未充足の年度がみられ、特に学部卒業生の進学者を増やすことが課題となっている。今後は学内外の要因を精緻に分析したうえで、定員充足率100%へ向けた取り組みの検討を期待したい。

基準領域2 教育の課程と方法

基準2-1

○ 教職大学院の制度並びに各教職大学院の目的に照らして、カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を編成していること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

実習と並行して省察科目を設定し、常時往還させている。履修プログラム制のもとで、9つの型をモデルとして実習科目と省察科目を連動させている。学生の多様なニーズに対応できるようなしくみを構築すると同時に、2年間を体系的に学ぶことができるように配慮した教育課程が編成されている。教科横断型・教科複合型の専門科目として「授業開発力の育成と新教科領域の開拓Ⅰ・Ⅱ」が設定されている。

基準2-2

○ 教職大学院の制度並びに各教職大学院の目的に照らして、ふさわしい授業内容、授業方法・形態になっていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

教職大学院の目的にそって、学校現場における現代的な課題に対応した適切な授業内容・方法・形態となっている。現職教員学生がメンター、学部卒学生がメンティで共修を進めている授業がある。共同開講のスタイルでチームティーチング（TT）をすすめており、実践演習科目「学校実践総合演習」により未来の学校を構想する取り組みを行っている。

研究者教員と実務家教員のTTをはじめとする授業運営上の工夫がなされ、授業内容の面においても、スクールロイヤー（弁護士）をゲストで招聘するなど現代的な教育課題に即した授業を実施している。学校での実際の事例を用いて、模擬ケース会議を実施し、研究科教員もスクールカウンセラーとして必要に応じて参加するなど、学校現場の実情に即した授業を行っている。地域の小中学校や特別支援学校等へのフィールドワーク、民間フリースクールへの見学なども加え、多様な方法で学校現

場の実態にせまる授業としている。「履修点検シート」で履修奨励科目を明示することで、学生の学びが体系的なものとなるように工夫されている。授業の成果と課題を確認するための「授業振り返り会」を開催している。遠隔地から勤務している現職教員学生からの要望に応じてオンラインを用いた個人指導を行っている。

基準 2－3

○ 教職大学院にふさわしい実習になっていること。

評価結果・・・基準の内容を満たしていると判断する。

修学目的や学生のニーズに応じて選択できるよう3つの枠組での実習科目が適切に配置されている。実習は400時間となっており、1年次前期に学校以外の関係機関での実習を実施している。入学数に対して十分な連携協力校が確保されている。連携協力校と密接な関係を築き、丁寧な巡回指導がなされている。実習科目に関わるすべての教員が実習の巡回指導に関わっている。巡回指導の実施記録を作成している。研究成果は教育実践研究フォーラムにおいて発表し、現場参加者と討論している。現職教員学生の現籍校での実習を基本としているが、現籍校管理職や教育委員会と教職大学院が密接に連絡を取り合いながら、実習の内容や実習として取り扱うことができる業務を整理し、実習の目的が達成できるよう配慮されている。2年次の教職大学院の学修に支障がないよう、校務の軽減などの依頼も行われている。

高等学校の連携協力校が1校のみである理由は、教科によっては指導できる教員がいないと受け入れが難しい場合がありえるためであった。この場合、大分県教育委員会と協議して、連携協力校を紹介してもらえる体制があるとのことであったが、将来的に高等学校の教員志望の学生が入学した場合の対応について引き続き検討をお願いしたい。

基準 2－4

○ 成績評価・単位認定、修了認定が教職大学院の教育の在り方に照らして適切であること。

評価結果・・・基準の内容を満たしていると判断する。

A以上の学生割合が多い科目など、いくつかの基準を設けて該当する科目担当者にヒアリングを実施するなど、成績を検討する場が設けられていることは、優れた取組であると考え。複数教員による評価を行うなど、適切な評価が行われている。A以上の者が受講者数の60%を超えた要因、D以下の者が受講者数の30%を超えた要因について聞き取り調査を行っている。成績に対する異議について、適切に対応できるしくみが構築されており、学生にも周知されている。

基準領域 3 学習成果

基準 3－1

○ 各教職大学院の目的及びディプロマ・ポリシーに沿って、学習成果があがっていること。

評価結果・・・基準の内容を満たしていると判断する。

各DPに即した力が身についたかどうか、入学時と修了時で比較することで検討している。教職大学院の目的やDPに沿って、適切な学習成果があがっている。満足度調査の結果をみると、5点満点で前期が4.44点、後期が4.51点と非常に高くなっている。毎学期、授業評価アンケートを実施し、その結果を専任教員のFDとして実施している「授業振り返り会」で共有し、改善策を検討している。教員就職率は、開設以来、100%を継続している。毎年度「資質能力変容調査」を実施し、DPに即した力が身に付いたかを確認している。

基準 3－2

○ 修了生の学習成果の把握に努めていること。

評価結果・・・基準の内容を満たしていると判断する。

様々な方法によって、修了生の学習成果の把握に努めている。教職大学院の学びの学校現場等への影響について、中長期的に追跡調査を検討している。修了生への追跡調査データ収集・修了生の勤務校調査（勤務校訪問）を行い、毎年度のホームカミングデイ（7月）で修了生との交流を図りながら定期的計画的に追跡調査をしており、教育実践研究フォーラム（2月）等を修了生支援の場として活

用している。ホームカミングデイ・実践研究発表を同日に開催しており、修了生を対象にいつでも個別相談を受け付けるページを研究科ウェブページに用意していることは特筆すべきである。平成 29 年度から令和 5 年度までの修了生 42 名中 41 名（97.6%）が学校管理職に登用され、うち 17 名が校長になっている。

基準領域 4 教育委員会等との連携

基準 4－1

○ 教育委員会等との連携が機能していること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

教育委員会の関係者が「教育課程連携協議会」「実習運営協議会」の委員となっていることのほかに、「教育実践研究フォーラム」および「NITS 教職大学院コラボ研修」の実施について大分県教育委員会が後援・参加しており、さらには令和 5 年度からは別府市教育事務所との連携・協働が行われている。大分県教育委員会との人事交流では 3 人の実務家教員が派遣されており、教育委員会との連携事業がいずれも充実している。教育委員会等の関係者と教職大学院の教員双方での情報や意思の共有が適切に進められていることを確認した。

基準領域 5 学生支援と教育研究環境

基準 5－1

○ 履修指導並びに学修支援を適切に行っていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

「養成する人材像と履修プログラム」で示されている 3 つの履修プログラム・9 つの型に即して、複数の指導教員が適切に指導・支援をする体制が整えられている。「履修点検シート」に基づいて履修指導を実施しており、学生のニーズやキャリアプランに合わせた履修計画を策定し、複数教員による指導体制を構築し、「学び続ける教員」を支援するための仕組みを整備している。

基準 5－2

○ 生活支援、キャリア支援、経済支援の取組、並びに学生に対するハラスメント、メンタル・ヘルス等に対応する措置が適切であること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

授業料免除をはじめ、多様な経済支援の制度が用意されている（例：様々な奨学金制度・基金・大分県教育委員会の補助）。県派遣の現職教員学生のうち、学校管理職候補者は、受験料、入学料、授業料全額を大分県教育委員会が負担している。

教採対策サポートを開催しており、「学生指導部会」を設けて学生の悩みや困りごとを相談しやすい体制を構築することによって、適切な生活支援、キャリア支援、経済支援のしくみを整備している。

基準 5－3

○ 施設・設備並びに図書、学術雑誌、電磁的方法により提供される学術情報資料を、有効に活用していること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

施設・設備、図書が適切に整備され、有効に活用されている。「教室の設備は良好で適切なものであると思った」の質問に対する肯定的評価は、およそ 89%と高くなっている。教職大学院セミナー室には、大分県内の小中学校で採用されている教科書をすべて保管され活用されている。

基準領域 6 教育研究実施組織

基準 6－1

○ 教育研究上の目的を達成するための組織が機能していること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

教育研究上の目的を達成するための組織が適切に整備され、機能している。研究科運営委員会の下に専門部会・作業部会を設置し、適切な管理運営がなされている。県派遣実務家教員の任期は3年程度である。8人中3人が大分県教育委員会との人事交流である。多様な領域をカバーする研究者教員が配置され、大分県において高い実務実績のある実務家教員も適切に採用されている。実務家教員の選考内規などを定めて、適切な運用がなされている。教職大学院の専任教員のなかで負担が偏らないように配慮がなされている。

基準6-2

○ 教育研究上の目的を達成するために、組織的に研究する環境を備え、またFDに取り組んでいること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

組織的に研究する環境が整えられており、多彩なFD活動に取り組んでいる。附属学校園や公立・私立学校、関連機関との連携も盛んである。すべての新任教員が、着任年度に研究内容や教育実践について発表し、質疑応答を行っている。教職大学院独自の取り組みとして「教育学部・教育学研究科短期プロジェクト」「教職大学院研究交流会」（月1回）の実施、「授業振り返り会」（年2回）の実施、「互見授業」への事務職員の参加など、日常的なFD活動に協働で学び合っている（事務長は、教職大学院の強み（例：少人数教育）を理解するために実際にすべての授業を参観したことを確認した）。教員の研究環境整備を支援することを目的とした「科研費アドバイザー制」「科研費申請に係るミニレクチャー」を実施している。

基準領域7 点検評価と情報公表

基準7-1

○ 教職大学院の教職課程の自己点検・評価を定期的、組織的にやっていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

自己点検・評価結果をウェブサイトで公開している。自己点検・評価について外部委員からフィードバックを得ている。

基準7-2

○ 教職大学院の教育研究活動等の状況並びに成果を、広く社会に公表するため、積極的に発信していること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

ウェブサイトを中心とした媒体で、必要な情報が適切に情報発信されている。ウェブサイトの充実により、簡単に取組の状況を把握できるようになっている。

Ⅲ 評価結果についての説明

大分大学から令和5年10月4日付け文書にて申請のあった教職大学院（教育学研究科教職開発専攻）の認証評価について、その結果をⅠ～Ⅱのとおり報告します。

教員養成評価機構では、「教職大学院等の認証評価に関する規程（平成21年10月20日理事会決定）」に基づき「認証評価実施要項」、「自己評価書作成要領」、「訪問調査実施要領」等により大分大学が実施した自己評価を前提に書面調査及び訪問調査を行い、評価結果を作成しました。

評価は、機構の評価委員会の下にある評価専門部会の評価員6名が担当しました。評価員は、教職大学院等を有する大学の関係者、有識者で構成されています。評価にあたっては、教職大学院評価基準（平成21年10月20日決定）に基づき実施しました。

書面調査は、令和6年6月末に提出のあった「教職大学院認証評価自己評価書」、「基礎データ：1 現況票、2 専任教員個別表、3 専任教員の教育・研究業績、4 シラバス」及び「添付資料一覧：資料1 これまで実施してきた入学定員の充足のための方策ほか全45点、訪問調査時追加資料：資料49 履修点検シート（令和5年度以降）ほか全31点」をもとに調査・分析しました。

「教職大学院認証評価自己評価書」における「Ⅶ 基準ごとの自己評価」の調査・分析については、

「Ⅵ 前回評価の指摘事項の対応状況」及び「Ⅷ 法令要件事項の確認」の記載内容を踏まえています。

各評価員による調査・分析の結果は、主査（大分大学教職大学院認証評価担当）に集められ、評価専門部会（評価チーム会議）の検討を経て整理し、令和6年9月24日、大分大学に対し、訪問調査時における確認事項と追加提出書類・閲覧書類に関する連絡をしました。

訪問調査は、「現地訪問視察」と「ウェブによる面談」に分け、令和6年10月8日に現地訪問視察を、令和6年11月22日にウェブによる面談を大分大学教職大学院（教育学研究科教職開発専攻）に対して実施しました。

現地訪問視察では、教職大学院関係者（責任者）及び教員との面談（1時間30分）、学生との面談（1時間）、連携協力校の視察・同校校長及び教員等関係者との面談（1校1時間）、学習環境の状況調査（30分）、関連資料の閲覧を実施しました。

ウェブによる面談では、教育委員会等関係者との面談（45分）、連携協力校校長及び教員等関係者との面談（45分）、授業等教育現場視察（1科目1時間）、修了生との面談（45分）、教職大学院関係者及び教員との面談（15分）を実施しました。

書面調査と訪問調査に基づき、各評価員から主査に調査・分析結果の最終報告が集められ、主査及び副査が評価結果を取りまとめた後、評価員全員で確認し、令和6年12月25日開催の評価専門部会において審議し「評価結果原案」としました。

「評価結果原案」は、令和7年1月23日開催の第2回評価委員会に諮り審議し、「評価結果案」としました。「評価結果案」を、大分大学に示し、意見申立の手続きを経たのち、第3回評価委員会を行い、令和7年3月14日をもって最終的な評価結果を決定いたしました。

評価結果は、表紙の「教職大学院の評価ポイント」、「Ⅰ 認証評価結果」、「Ⅱ 基準ごとの概評」で構成されています。

「教職大学院の評価ポイント」は、大分大学教職大学院（教育学研究科教職開発専攻）の教育課程、教員組織、施設・設備、そのほか教育研究活動について、評価により見出される特色や大きな問題点について記しています。

「Ⅰ 認証評価結果」は、機構の教職大学院評価基準に適合しているか否かを記しています。適合していない場合は、その理由を付しています。

「Ⅱ 基準ごとの概評」は、基準ごとの評価結果、及び基準ごとの評価により見出される特色や問題点について記しています。

Ⅰで認証評価基準に適合しているにもかかわらず、問題点や改善を要する事項が記載された事項は、今後、是正するような措置を講じることを求めるものです。ただし、このことについて、後日、改善報告書等の提出を求めるものではありません。

以 上

添付資料一覧

- 資料 1 これまで実施してきた入学定員の充足のための方策
- 資料 2 大分大学大学院専門職学位課程（教職大学院）における入学定員の充足状況
- 資料 3 大分大学自己評価書【2022 年度版】(pp. 39-40)
- 資料 4 平成 31 年度(2019 年度)入学者用履修の手引 (p. 2、6)
- 資料 5 令和 2 年度(2020 年度)入学者用履修の手引 (p. 12、17)
- 資料 6 教育学研究科担当実務家教員の選考基準に関わる内規
- 資料 7 履修の手引 教職大学院 令和 6 年度（2024 年度）入学生用
- 資料 8 履修点検シート
- 資料 9 学生募集要項（最新版）
- 資料 10 大分大学教職大学院ウェブサイト
- 資料 11 大分大学大学院入学者選抜実施規程
- 資料 12 大分大学大学院教育学研究科（教職大学院）パンフレット
- 資料 13 欠番
- 資料 14 令和 6 年度新入生ガイダンス配付資料
- 資料 15 科目別履修登録状況（R2～R5 年度）
- 資料 16 教育実践研究報告書 題目一覧
- 資料 17 令和 6 年度授業科目の開設時間割
- 資料 18 実習の手引
- 資料 19 実習の記録（実習科目の領域ごとに 1 名分）
- 資料 20 令和 6 年 5 月 1 日現在の連携協力校一覧
- 資料 21 欠番
- 資料 22 欠番
- 資料 23 令和 5 年度教職大学院授業別授業評価アンケート（前期）実施報告と集計結果のまとめ
- 資料 24 令和 5 年度教職大学院授業別授業評価アンケート（後期）実施報告と集計結果のまとめ
- 資料 25 就職状況
- 資料 26 修了生の勤務校調査（令和元年度祖峰小学校訪問報告、令和 2 年度由布川小学校訪問報告、令和 5 年度日田市立有田小学校訪問報告）
- 資料 27 大分大学大学院教育学研究科教育課程連携協議会：設置の趣旨及び概要、関係規程、開催の状況
- 資料 28 大分大学大学院教育学研究科実習運営協議会：設置の趣旨及び概要、関係規程、開催の状況
- 資料 29 運営委員会資料（令和 5 年度後期指導教員）
- 資料 30 運営委員会資料（令和 6 年度前期指導教員）
- 資料 31 学生相談窓口ウェブサイト
- 資料 32 大分大学における入学料の免除及び徴収猶予に関する取扱規程
- 資料 33 大分大学授業料免除等及び寄宿料免除取扱規程
- 資料 34 教職大学院学生の入学料、授業料免除の状況（直近 5 年）
- 資料 35 教職大学院が管理する諸室利用・運営マニュアル
- 資料 36 大分大学大学院教育学研究科運営委員会細則
- 資料 37 令和 6 年度教育学研究科運営委員会及び専門部会・作業部会担当業務
- 資料 38 研究交流会・計画案（調査研究・FD 部会）第 4 回運営委員会資料
- 資料 39 令和 4 年度（2022 年度）教職課程自己点検・評価報告書
- 資料 40 大分大学「教育情報」ウェブサイト
- 資料 41 教育学研究科学生からの成績評価に対する申立て制度について（申合せ）
- 資料 42 ファカルティディベロップメントプログラムガイド 2024
- 資料 43 教職大学院 FD・SD：NITS・教職大学院等コラボ研修実施要項
- 資料 44 教職大学院 FD・SD：互見授業実施要項
- 資料 45 令和 5 年度 科目別の成績評価（標語）分布
- 資料 46 令和 5 年度 基盤教育経費収支決算書

- 資料 47 令和 6 年度 基盤教育経費予算案
- 資料 48 大分大学大学院教育学研究科規程
〔追加資料〕
- 資料 49 履修点検シート（令和 5 年度以降）
- 資料 50 令和 6 年度（2024 年度）大分大学大学院教育学研究科専門職学位課程入学者選抜試験統計（総計）
- 資料 51 令和 6 年度大分大学大学院教育学研究科教職開発専攻（専門職学位課程）教育に関する知識を問う論述問題
- 資料 52 大分大学大学院教育学研究科入学者選抜試験の合否判定に関する申合せ
- 資料 53 大分大学大学院教育学研究科第 2 次募集以降の募集に関する申合せ
- 資料 54 中堅教員履修プログラムの学びのプロセス・イメージ図の例（特別支援教育領域現職院生：2 年間の研究プロセス【イメージ】）
- 資料 55 学卒院生履修プログラムの学びのプロセス・イメージ図の例（2 年間の流れ）
- 資料 56 授業振返り会実施要項
- 資料 57 授業振返り会配付資料
- 資料 58 教職大学院 実習の手引 令和 6 年度（2024 年度）入学生用
- 資料 59 令和 5 年度の実習に係る経過報告
- 資料 60 学校経営課題研究Ⅰ・Ⅱにおける構想発表会、中間発表会の開催実績
- 資料 61 学校経営課題研究Ⅰ・Ⅱにおける発表会について
- 資料 62 令和 6 年度（2024 年度）授業開発（教科教育）・学級経営（生徒指導）分野 教育実践研究報告 構想発表会（M2）の開催について
- 資料 63 令和 6 年度（2024 年度）授業開発（教科教育）・学級経営（生徒指導）分野 教育実践研究報告 構想発表会（M2）資料
- 資料 64 令和 6 年度（2024 年度）授業開発（教科教育）・学級経営（生徒指導）分野 教育実践研究報告 中間発表会（M2）の開催について
- 資料 65 令和 6 年度（2024 年度）授業開発（教科教育）・学級経営（生徒指導）分野 教育実践研究報告 中間発表会（M2）資料
- 資料 66 令和 5～6 年度学校実践実地研究Ⅰ・Ⅱにおける実習校との連絡会及び巡回指導＜予定＞
- 資料 67 令和 5～6 年度 学校実践実地研究Ⅰ・Ⅱにおける実習校との連絡会及び巡回指導の記録
- 資料 68 令和 5・6 年度学校経営プロジェクトⅡ・Ⅲにおける現任校との連絡会及び巡回指導
- 資料 69 令和 5・6 年度学校経営プロジェクトⅡ・Ⅲにおける現任校との連絡会及び巡回指導の記録
- 資料 70 令和 5 年度資質能力変容調査（7 期生・修了時）の実施について（依頼メール及び入力フォーム）
- 資料 71 令和 4 年（2022 年）度 7 期生 資質能力変容調査（2024 年 3 月修了時）結果
- 資料 72 大分県公立学校教員育成指標
- 資料 73 修了生調査の結果について
- 資料 74 修了生の学修の成果の検証に係る学校訪問について
- 資料 75 令和 5 年度教職大学院互見授業報告
- 資料 76 令和 5 年度 教職大学院授業アンケート（後期）実施報告と集計結果のまとめ
- 資料 77 令和 5 年度 教育学研究科改善のためのアンケート 集計結果
- 資料 78 大分大学卒業時・修了時調査「教育・学修成果の検証に関するアンケート」の実施要項
- 資料 79 2023 年度修了時調査（教育・学修成果の検証に関するアンケート）集計結果